

横浜市立藤の木中学校 令和元年度 体育・健康プラン

～体育・健康に関する指導の全体計画～

1 中期学校経営方針

(1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

学校教育目標	教育課程全体で育成を目指す資質・能力
生徒一人ひとりを大切にし、社会に貢献する人を育てるために豊かな心と健やかな体を育む教育を進めます。	自分のよさや可能性を知り自己実現に向かう力

(2) 中期取組目標

中期取組目標
<ul style="list-style-type: none">・生徒と教職員の信頼関係を絶えず築き、生徒一人ひとりを大切にした教育活動を推進します。・教職員研修の充実を図り、チームワークとコミュニケーションを大切にした協働体制を推進します。・子どもの交流、小中合同の研究・研修を充実させ、小中一貫カリキュラムのマネジメントに努めます。・学校運営協議会を基に、保護者・地域との協働による学校づくりを進めます。

(3) 体育・健康に関する指導の重点取組分野・具体的取組

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	<ul style="list-style-type: none">・保健体育や理科、家庭科の授業、学校保健委員会等と連携を図ることにより学びの充実を図り、「健やかな体」の実現につなげます。・健康診断の結果や体力テストの結果を生徒一人ひとりに振り返らせることで自分の課題を明確にし、解決していける力を育てます。
担当	保健体育科・ 養護教諭

2 体育・健康に関する実態把握

(1) 体育・健康に関する実態

- ・運動時間は、文化部に所属している生徒は体育以外で体を動かす機会が少ない。どの学年においても学年レク等の行事では、運動が苦手な生徒も含め、全体で楽しく取り組む姿が見られる。
- ・保健室はけがや病気だけでなく心の健康問題を抱えている生徒も相談に活用している。
- ・昼休みにはグラウンドで遊ぶ生徒たちも少しずつ増えている。

(2) 体力の概要と要因の分析

- ・全国平均や市平均と比べてもほぼ同じで、全体的にバランスがとれている。
- ・国や市の平均と比べ、男子は敏捷性が必要とされる動きの能力が下回っており、女子は筋力を高める運動が下回っているため、力の負荷が大きい運動で敏捷性を高める必要がある。
- ・些細なことで転倒したり、けがをしたりする可能性があり、筋力・バランス感覚・予測能力を今後さらに身に付けていく必要がある。

3 体育・健康に関する具体的取組

教科

《体育科の取組》

自分の健康のために積極的に運動する力を育む

- ・保健体育科では、敏捷に力強く運動する能力に重点を置き、活動を展開していく。
- ・毎時間の準備運動としてグラウンドのランニング、ダッシュ、筋力トレーニングなど、単元にあった基礎的な運動を取り入れる。

《他教科での取組》

人や社会との関わりの中で、相手や自分を大切に する心を育てる

- ・規範意識を高め、人と積極的に関わる態度の育成を目指した道徳授業。
- ・基本的な生活習慣を身につける意識向上を目指した健康教育。

特別活動・総合的な学習の時間

- 保健体育で学んだ資質や能力をさらに発展させ、体育祭等の行事を通して最後まであきらめないで取り組むこと、自分の仕事を、責任を持って行うことなどの態度を育成する。
- 保健委員会が中心となり、日常生活での課題を取り上げ、生涯にわたり健康な生活を送る力を身に付けるようにする。
- 道徳や学級活動を通して、他者と協調し、他者を思いやる心など豊かな人間性を育成する。また、健全で、明るいい心で生活しようとする態度を育む。

課外活動

- ・校外学習の準備、活動を通して、生活習慣を見直す取組みを指導する。
- ・よりよい集団となるように、学校行事を通じて、仲間との人間関係を円滑に行う力を育てる。
- ・職業体験の事前学習、活動を通して、社会に対する関心を深め、自分の力を社会貢献につなげていく。

令和元年度 藤の木中学校 体力向上1校1実践運動

《名 称》 体力・健康力向上

《ねらい》 運動機会の確保

- ・体育的行事を通して他者と協調し、他者を思いやる心など豊かな人間性を育成する。
- ・生涯を通じて運動を日常生活の中に積極的に取り入れようとする態度を育成する。

《内 容》 体育的行事を委員会（児童・生徒）が企画・運営し、内容と取組の充実を図り、運動の楽しさを味わわせ、安全に体育活動・競技を実施する。

- ・体育祭実行委員：体育祭、球技大会
- ・保健委員会：健康に関する学習会、学校保健委員会と連動した取組
- ・学年：学年レクリエーション

- 指 標： ① 行事後の振り返り 「事前取組」 「満足度」
② 市学力・学習状況調査の意識調査と生徒の活動状況の分析